

第 11 期
報 告 書

2019年4月 1日から
2020年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

2019年度事業報告書

当会が一般財団法人として発足し11年が経過した。

主な主催事業としては、夏全国大会の水戸市での初開催及び自治体として初の専用コート製作の実現、海外の活動地域拡大を目指してアジア予選香港大会への代表選手団派遣が挙げられるが、大きなマイナス面としては、やはり新型コロナウイルスの拡大を受けての、初の全国大会中止が最も大きい。

財政面では、2016年度以降継続している会員収入増加及び支出の抑制により、大会中止が生じても運営に喫緊の問題は起きていないが、不透明な状況が2020年度後半まで続く場合は、収支構造自体に影響が及ぶ可能性がある。

登録面においては、小学生競技チーム(D1・D1G)登録は微減しているものの、シニア競技者については増加、指導者資格/審判員資格はそれぞれ3000名/4000名を超えるまでに大幅に増加という、昨年度と同様の傾向で安定している。

協会外の組織への働きかけについては、これまで不足していた、新たな用具メーカーの交渉の開始や、体育館施設管理者との定期的な教室運営の取り組み等の連携が進んでいる。その過程での、外部要因による全面的な活動停滞は大変厳しいが、他のスポーツ団体との連携を図りつつ再開までの準備を整えることとした。

1. 全国競技会

① (小学生) 全日本ドッジボール選手権

2019年度も地元コンベンション・コミッションとの連携を意識して準備を進めた。初会場となる夏の茨城県水戸市においては、地元協会からの積極的な働きかけの下、初の自治体における専用コート新規作成が実現した。

参加チームにおいては、青森県から代表チーム選出が無い状況が続いているが、本会場での夏の全国大会開催は2023年度まで確定していることから、東北地域との地理的な接点を活かして再度の活性化を図ることとした。

春においては、初の広島県での開催に向け準備も順調に進んでいたが、3月に入り新型コロナウイルスの影響拡大により会場使用自粛要請が出され、29年目にして初めての中止となった。

収支的には事前会議等の経費の支出のみであったものの、全国の6年生にとって小学生最後の大会が中止となってしまったため、代替案を調整・会場確保を進めた(2020年度もウイルスの影響が沈静化せず、後に代替大会も中止。)

	第29回全日本ドッジボール選手権 全国大会	第29回春の全国小学生ドッジボール選手権 全国大会
日時	2019年8月18日(日) 9:00~17:00	(新型コロナウイルス感染拡大による、会場 使用自粛要請を受け中止) ※会場は2年後に再度使用予定
会場	アダストリアみとアリーナ	
助成団体	水戸市 (公財)ミズノスポーツ振興財団	
参加チーム 人数	46都道府県より48チーム 選手 小学生男女3~6年 813名 指導者 チーム役員 142名 他 台湾より招待2チーム 40名	



②2019J.D.B.A.全日本選手権



中学生以上の競技者を対象に、2014年よりブロック予選を伴った形で開催している。
 今回は北海道ブロックからも参加チームがあり、北海道～九州ブロックまで全てのブロックからの代表32チームが出揃った。

小学生全国大会に比べると小規模ではあるが、小学生のプレイスタイルから進化した熱戦が展開され、運営面も事前打ち合わせを省略しても問題ない程に、地元静岡県協会を始めとした東海ブロックの体制は整っている。

全国的に7割を超える小学校6年生の活動継続希望と、卒業後も実際に活動可能な地域の偏りにはまだ乖離があるものの、他の全国大会と同様に開催地を変えながら周知を図っていくことで、競技者層の柱となるよう引き続き計画を進める。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
2019J.D.B.A. 全日本選手権	2019/10/20	このはなアリーナ 静岡県静岡市	北海道～九州までの9ブロック代表32 チーム（予選参加94チーム）

③第6回全日本女子総合選手権



2014年度より、小学生～社会人までの女子選手の総合大会として実施している。
全日本選手権に続き東海ブロックの協力を受け、愛知県豊田市のスカイホール豊田での開催となった。

2018年度以降、他の全国大会と同様に競技会に特化し、48チームで開催している（D1G32チーム、シニア女子16チーム）。女子チームの活動規模は地域による差異が大きく、シニア女子チームの固定化、及び北海道／東北ブロックからのチーム選出がない等の課題は続いている。

2020年度は夏に続き茨城県での開催となる。小学生女子カテゴリーの優勝チーム輩出県であり、地理的にも東北ブロックと隣接しているため、利点を活かした開催方法の再検討を進める。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
第6回全日本女子総合選手権	2019年12月1日	スカイホール豊田	女子小学生(D1G)都道府県代表32チーム 女子中学生以上(シニア)5ブロック代表16チーム

2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関し情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

● B級公認審判員認定講習会

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
北海道	2019/10/20	北海道立野幌総合運動公園(江別市)	4	2
東北	2019/9/29	本宮地区活動センター・本宮小学校体育館(岩手県)	10	1
関東	2019/10/6	宇都宮市役所青少年活動センター・トライ東(栃木県)	16	2
北信越	2019/11/10	長野市若槻公民館・市立若槻小学校(長野県)	7	3
東海	2019/9/29	弥富市立日の出小学校(愛知県)	16	6
関西	2019/11/17	大阪市立柴島中学校(大阪府)	4	1
中国	2019/9/8	廿日市市立平良小学校(広島県)	9	4
四国	2019/11/24	高松市仏生山公園体育館(香川県)	7	1
九州	2019/10/28	大崎町総合体育館(鹿児島県)	7	2
計			80名	22名

半数近くを占める再チャレンジの受験者に関して、前回受験後の是正（フィードバック）及び対策他が効果的に実施されていない傾向が伺えた。次年度からは、中央研修会で実践した指導内容等を基に受験準備段階における事前研修の方法や指導内容面に関する見直し（精査）を図り、また、指導ポイント要領の伝達を実施すると共に受験者本人の努力（向上心）を踏まえた上での推薦（見極め）を行なう様、確認を行った。



C級審判員は引き続き増加し、審判員資格者総数は4,000名を超えた。指導者講習会参加を機に新規取得・再取得する例も多いものの、ゲームをコントロールする立場にやりがいを感じる例も少なからず出ていと期待し、技量の底上げに繋がるよう取り組む。

尚、2019年度以降、WDA種目にも正式に参加していることから、他種目との分析・比較による更なる活性化も視野に検討を進める。

3. 普及委員会

- 全国大会参加チーム対象アンケートの実施

競技者層の主力となる、D1チームに関する多面的な情報を集約／分析することにより、チームの増加・運営強化に繋げる手段としての活用を目的に、夏の全国大会参加チームを対象にアンケートを行った。2012年に行ったアンケートと同条件に近づけることで、継続した傾向の把握も目指す。集計結果は2020年度初頭にまとめ、加盟協会に公開する。

4. 指導委員会

- 更新講習会／講演会

準指導者資格保有者を対象に、指導者資質の定期的な相互確認や情報の更新を目的に、2018年度以降、JSPOに準じた講習会を開いている。

基本的には都道府県協会単位で開催している。

しかしながら、今回の女子総合選手権開催会場となった愛知県は特に各会員の規模が極めて大きいことから、大会開催機会を利用し、愛知県協会役員を講師として招き、チーム指導と協会運営の両面からの理解を目指す講演会としても開催した。

今回は実験的な要素が強かったが、成功例のイメージや協会の方向性の共有方法として有効なため、2020年度以降、他の地域でも開催を目指すこととした。



●指導者養成講習会 集合学習④

準指導員（区分II）の最終段階として集合学習④を4ブロックにて開催した。

集合学習①～④+ 考査（実習10時間+レポート提出による審査）に合格し、日本スポーツ協会の共通科目以上の単元を修了した者は、本協会独自資格ではなく、日本スポーツ協会公認のドッジボールコーチとして認められることとなる。

公認指導者講習会 集合学習④ 対象 公認準指導者 資格区分 I 取得者	2019年12月14日(土)・15日(日) えびな市民活動センター ビナレッジ・ビナスポ 神奈川県	合格者 39名
	2019年10月26日(土)・27日(日) 上田市上野が丘公民館 長野県	合格者 78名
	2019年11月22日(土)・23日(日) 大阪市立柴島中学校 大阪府	合格者 20名
	2019年12月28日(土)・29日(日) 糸満市光洋小学校 沖縄県	合格者 25名

区分2に関しては4会場のため取得者は限定されるものの、指導員資格取得者全体では3200名以上となった。

尚、2020年度も引き続き日本スポーツ協会公認指導者の増加に向け、ステップアップへのスケジュールをより整備していく予定であったが、2019年度末からの新型コロナウイルスの影響期間によっては、スケジュールを遅らせる検討も始めている。

●倫理規程・指導者関連規程の制定（倫理規程/倫理委員会規程は倫理委員会を設置し、管轄を移行）

社会全体におけるスポーツ指導者への倫理・社会規範の意識向上の必要性から、当協会においても諸規程を整備した。指導委員会が中心となり作成を進めたが、倫理規程については、指導者のみではなく役職員及び登録会員全てに必要な規範でもあるため、管轄の倫理委員会も整備を進めた。


5. 日本代表活動事業(国際委員会)

2018年以降、シングルボールとマルチボールを組み合わせることによる世界全体でのドッジボールの発展の可能性を探るため、本格的に海外他団体(World Dodgeball Association)への参入を進めている。国際大会への選手の遠征だけではないため、国際委員会として正式に発足した。

①2019 WDA Head referee course

WDAへの正式加盟を経た後、これまでの選手の派遣に加え、審判員の国内育成に取り組んだ。

当初は夏の小学生全国大会の前日にWDA会長を招く形式での開催を計画したものの、先方の事情により来日が見送られた。国内関係者のみとなるため一度は開催自体を延期する意見も挙がったが、WDAの審判資格認定員にはネット回線を通じて協力を得る形で、変則的ながら資格取得までを実現した。

				
事業名	開催場所	期日		合格者数
2019 WDA Head referee course	アダストリアみとアリーナ	2019年 8月16～17日	16日 講義・シャドーイング 17日 試験	29名



②ASIAN DODGEBALL CHAMPIONSHIP 2019

正式加盟後の初参加となるアジア予選には、男子/女子/男女混合の3カテゴリーの他、大会審判員も派遣した。

最大でも4か国/地域で合ったシングルボールのアジアカップから大きく増加し、10か国/地域での予選であったが、男子及び女子は第三位、混合は第四位と、いずれも入賞し、2020年にエジプト・カイロで行われる世界大会への参加権利を得た。

ただ、優勝を争うマレーシア・オーストラリアとは明らかな差が生じている。日本が希望している、両種目を並行して拡大していく計画には、成績の面でも両種目を強化する意義を証明する必要があるため、全員からのレポートを基に、世界大会へ向けた準備を進める。

(追記 新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、海外渡航自体困難となる可能性が生じている。大幅に計画修正の可能性あり。)



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター

事業名	開催地	期日		参加者数
選考合宿	久野屋(山梨県南都留郡)	2019年 6月22～23日	候補選手を招集しての派遣選手選考	選手54名 役員スタッフ5名 審判員4名
直前合宿		9月7日～8日	強豪国(オーストラリア・マレーシア)を想定した実戦練習	選手32名 審判員5名 役員スタッフ10名
ASIAN DODGEBALL CHAMPIONS HIP 2019	香港	10月24～28日	25日 審判クリニック 26～27日 大会審判員	審判員6名
		10月25～28日	26日 予選リーグ 27日 決勝トーナメント	男子12名 混合12名 女子9名 役員スタッフ7名



6. 会議の開催状況

① 評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
定時評議員会	2019/6/27	2018年度事業報告・収支決算 承認 2019-2022年度評議員/理事/監事承認
臨時評議員会	2020/2/27	2020年度事業計画・収支予算 承認 理事追加2名(2020年度から) 承認

② 理事会

	日程	主な議題
第1回	2019/4/21	(2019年度ミズノスポーツ振興財団助成金贈呈式) 2019-2020年度理事/監事承認 2019年度委員会事業承認
第2回	2019/6/22	2018年度事業・決算報告承認 海外戦略承認
第3回	2019/9/15	第29回夏小全国大会(同時開催WDA Head referee講習会)総括 専門委員会報告・国際委員会準備 ブロック長会議報告
第4回	2019/11/9	アジア予選遠征結果報告 2020年度全国大会日程/会場情報確認 ボール改定情報の確認 新規スポンサー情報
第5回	2020/1/25	2020年度全体事業/予算計画承認 スポーツ団体ガバナンスコード概要確認 全国大会(女子選手権総括/春小準備状況)確認 会員向け広報紙掲載内容確認
第6回	2020/2/29	第29回春小全国大会開催方法・条件整理(※会議後、3月7日時点で中止要件に該当したため、改めて3月広島開催は中止と決定) 2020年度専門委員会事業の承認

7. 他(委員会単位ではない事業/他団体への派遣事業)

❖ 協会広報紙作成・発行(総務・広報)

加盟協会協会内外に向けた広報紙を製作し、協会員・地方公共団体等へ発送した。

主催大会情報・講習会情報の他、競技会以外での選手の活躍の様子、マルチボールアジア予選香港大会の遠征報告、世界を舞台としたシングルボールの構想等の記事を掲載した。





❖ 小学生対象大会公式球の改定

長く小学生(D1/D1Gカテゴリー)~社会人までの大会で同じ規格のボールを使用していたが、他の球技では同様の例はなく、成長段階の小学生の動作には過度な負担をかけている可能性も高い。そのため、D1/D1Gカテゴリー対象のボールの改良を目指し、契約メーカーと共に、2018年以降テストを重ねていた。

既存の小学生チームの使用感の変化は抑えつつ軽量化を図ることを重点に進め、最終段階として全ブロックでのサンプリングテストを行った後、3月以降、両メーカーから発売された。

2020年4月以降の小学生大会使用公式球となる。

	
<p>ミカサ MG-JDB-L</p>	<p>モルテン D3C5000</p>

❖ 2019スポーツ祭り (<http://www.joc.or.jp/event/sportsfestival/>)

(主催 文部科学省、(独)日本スポーツ振興センター、(公財)日本スポーツ協会他)

今回もオリンピック・アスリートの一員として3名を全体行事に派遣した。

残念ながら一日を通して雨模様だったため、午前中は全参加者共通で屋内のみでの運動を合同で行い、午後のドッジボール教室も天候との兼ね合いでの開催となった。

悪天候にも関わらず、午後の教室には例年どおり100名弱の児童の参加があった。全てのプログラムを消化する希望が強かったものの、気温の変動による児童の体調への影響を考慮し、時間を繰り上げて終了とした。

<p>2019年10月14日 (月・祝/体育の日)</p>	<p>味の素フィールド西が丘 (東京都北区)</p>
	

❖ スミセイアフタースクールプロジェクト (<http://sumiseiafterschool.jp/about/>)

(主催 住友生命相互保険相互会社・NPO法人放課後アフタースクール)

本プロジェクトは6年目を迎え、2018年度より回数を増やした6会場での実施となった。

社会貢献的な特性上、交通手段が限られている会場も含めるため、1会場あたりの参加にはばらつきがあるものの、引き続き同プロジェクトの中で最も希望の多いプログラムとして安定している。

しかしながら、2020年に入り、徐々に本事業も新型コロナウイルス感染防止対応が必要となり、検温やマスクをしての指導等、感染リスクを下げながらの開催となった。

2020年度も引き続き実施されることは確定しているものの、同じく感染症対策との調整が必要と考えられる。

2019年11月9日	桂徳児童館（京都府京都市）	40名
2019年11月22日	大生院小学校（愛媛県新居浜市）	80名
2019年12月13日	白洲放課後児童クラブ（山梨県北杜市）	43名
2019年12月26日	強戸児童クラブ（群馬県太田市）	92名
2020年1月11日	豊小学校（広島県呉市）	22名
2020年2月19日	浜風小学校（兵庫県芦屋市）	90名



※写真はスミセイアフタープロジェクト活動ブログより転載。

❖ コナミスポーツ株式会社（管理施設での教室開催）

先方より体育施設の有効活用を兼ねて依頼を受け、8月に試験的に大分県立総合体育館にて教室を開催したところ、好評により開催地域を拡大することとなり、2020年2～3月にかけて愛媛・福岡での同企業管理体育館にて行う準備を進めていた。

当協会としても、これまで活動チームのない市町村であったため、相互に有効な取り組みであったが、新型コロナウイルスの拡大防止のため、自治体の要請を受けた施設休館に伴い、中止となった。

第 11 期

計算書類

2019年4月 1日から
2020年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

貸借対照表

2020年3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	33,593,464	26,378,264	7,215,200
商品	2,113,895	2,503,347	△389,452
前渡金	430,626	0	430,626
立替金		32,700	△32,700
未収入金	3,557,025	7,260,098	△3,703,073
流動資産合計	39,695,010	36,174,409	3,520,601
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	1	1	0
ソフトウェア	352,500	442,500	△90,000
保証金	414,000	414,000	0
その他固定資産合計	766,501	856,501	△90,000
固定資産合計	766,501	856,501	△90,000
資産合計	40,461,511	37,030,910	3,430,601
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	854,890	3,351,605	△2,496,715
前受金	1,005,000	943,334	61,666
預り金	61,221	88,710	△27,489
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税	417,100	361,500	55,600
流動負債合計	2,408,211	4,815,149	△2,406,938
負債合計	2,408,211	4,815,149	△2,406,938
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	38,053,300	32,215,761	5,837,539
正味財産合計	38,053,300	32,215,761	5,837,539
負債及び正味財産合計	40,461,511	37,030,910	3,430,601

損益計算書（正味財産増減計算書）

2019年4月1日から2020年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
事業収益	12,932,937	18,724,078	△5,791,141
登録料収益			
チーム登録料収益	4,254,000	4,296,000	△42,000
受取会費			
協会員受取会費	35,511,960	30,867,000	4,644,960
役員等受取会費	630,000	730,000	△100,000
加盟協会料収益			
加盟協会料収益	2,350,000	2,400,000	△50,000
スポンサー料収益			
スポンサー料収益	5,277,334	6,970,666	△1,693,332
販売収益			
販売収益	8,646,200	9,759,062	△1,112,862
検定料収益			
公認球検定料収益	2,547,360	1,607,040	940,320
手数料収益			
手数料収益	1,049,442	1,112,996	△63,554
受取補助金等			
受取助成金	4,898,000	8,708,000	△3,810,000
雑収益			
雑収益	432,030	319,765	112,265
経常収益計	78,529,263	85,494,607	△6,965,344
(2) 経常費用			
事業費			
謝金	921,000	735,618	185,382
旅費交通費	9,280,536	14,652,988	△5,372,452
宿泊費	3,825,839	5,001,544	△1,175,705
事業支援費	19,681,460	18,267,800	1,413,660
賃借リース料	672,468	1,931,918	△1,259,450
制作費	4,421,073	5,962,735	△1,541,662
用具費	3,027,347	2,831,065	196,282
通信運搬費	1,466,226	2,497,661	△1,031,435
印刷製本費	4,027,905	2,305,374	1,722,531
事業消耗品費	2,689,144	3,487,375	△798,231
事業雑費	2,967,829	3,115,323	△147,494
管理費			
給与手当	7,466,702	7,854,422	△387,720
通勤費	463,776	498,464	△34,688
法定福利費	1,244,301	1,294,440	△50,139
福利厚生費	69,470	75,660	△6,190
賃借料	3,566,356	3,312,816	253,540
リース料	254,016	243,000	11,016
旅費交通費	843,233	798,744	44,489
通信費	529,752	487,895	41,857
運賃	955,994	906,269	49,725
発送業務委託費	0	46,440	△46,440
消耗品費	476,899	325,023	151,876
顧問料	1,000,000	1,000,000	0
業務委託費	313,274	334,260	△20,986
会議費	56,120	24,420	31,700
接待交際費	263,078	247,487	15,591
水道光熱費	296,639	315,949	△19,310
諸会費	574,490	813,820	△239,330
租税公課	844,300	828,950	15,350
支払助成金	0	100,000	△100,000
減価償却費	90,000	19,750	70,250
雑費	332,497	348,034	△15,537
経常費用計	72,621,724	80,665,244	△8,043,520
当期経常増減額	5,907,539	4,829,363	1,078,176
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,907,539	4,829,363	1,078,176
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	5,837,539	4,759,363	1,078,176
一般正味財産期首残高	32,215,761	27,456,398	4,759,363
一般正味財産期末残高	38,053,300	32,215,761	5,837,539
II 正味財産期末残高	38,053,300	32,215,761	5,837,539

財務諸表に対する注記（附属明細書）

1.重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品……最終仕入原価法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……建物・建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

(3) リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式で計上している。

2.固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	10,011,600	10,011,599	1
ソフトウェア	450,000	97,500	352,500
合計	10,461,600	10,109,099	352,501

3.補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	BS上の記載区分
補助金・助成金						
スポーツ振興普及奨励事業助成金	スポ安	0	550,000	550,000	0	—
2019年度ジュニア育成助成金	ミズノ財団	0	500,000	500,000	0	—
2019年度全国大会開催助成金	水戸市	0	1,000,000	1,000,000	0	—
2019年度普及助成金	日レク	0	100,000	100,000	0	—
スポーツ振興基金助成金	スポーツ振興センター	0	2,000,000	2,000,000	0	—
スポーツ振興くじ助成金	スポーツ振興センター	0	748,000	748,000	0	—
合計		0	4,898,000	4,898,000	0	

財産目録

2020年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金手許有高	94,581	
普通預金 みずほ銀行神谷町支店	1,455,990	
普通預金 みずほ銀行神谷町支店(賛助会員)	2	
普通預金 みずほ銀行神谷町支店(振興くじ)	68,464	
普通預金 みずほ銀行神谷町支店(JKA)	586,647	
普通預金 みずほ銀行神谷町支店(ｽｽﾞ 振興)	2,295,456	
郵便振替 東京貯金事務センター(審判)	21,901,229	
郵便振替 東京貯金事務センター(積立金)	10,729	
郵便振替 東京貯金事務センター(ｽｽﾞ -ﾀ-)	68,390	
郵便振替 東京貯金事務センター(祝賀会)	69,903	
郵便振替 東京貯金事務センター	7,042,073	
商品 ルールブック、賞状、テキスト他	2,113,895	
前渡金 2020年度W D A 宿泊費、夏大会航空券	430,626	
未収入金 スポーツ振興助成金他	3,557,025	
流動資産合計		39,695,010
2. 固定資産		
(1) その他固定資産		
工具器具備品 大会用コート	1	
ソフトウェア システム開発費	352,500	
保証金 事務局	414,000	
その他固定資産合計	766,501	
固定資産合計		766,501
資産合計		40,461,511
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金 事務局経費	854,890	
前受金 2020年度代表選考合宿参加料、会費	1,005,000	
預り金 源泉税他	61,221	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	417,100	
流動負債合計		2,408,211
負債合計		2,408,211
正味財産		38,053,300

貸借対照表総括表

2020年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	33,593,464	0	0	33,593,464
商品	2,113,895	0	0	2,113,895
前渡金	26,330	0	404,296	430,626
立替金				
未収入金	580,025	229,000	2,748,000	3,557,025
流動資産合計	36,313,714	229,000	3,152,296	39,695,010
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	0	1	0	1
ソフトウェア	352,500	0	0	352,500
保証金	414,000	0	0	414,000
その他固定資産合計	766,500	1	0	766,501
固定資産合計	766,500	1	0	766,501
資産合計	37,080,214	229,001	3,152,296	40,461,511
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	854,890	0	0	854,890
前受金	1,005,000	0	0	1,005,000
預り金	61,221	0	0	61,221
未払法人税等	70,000	0	0	70,000
未払消費税	417,100	0	0	417,100
元入金	△34,175,745	21,843,463	12,332,282	0
流動負債合計	△31,767,534	21,843,463	12,332,282	2,408,211
負債合計	△31,767,534	21,843,463	12,332,282	2,408,211
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	68,847,748	△21,614,462	△9,179,986	38,053,300
正味財産合計	68,847,748	△21,614,462	△9,179,986	38,053,300
負債及び正味財産合計	37,080,214	229,001	3,152,296	40,461,511

損益計算書（正味財産増減計算書）総括表

2019年4月1日から2020年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会


(単位:円)

科目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
事業収益	2,876,531	5,869,406	4,187,000	12,932,937
登録料収益				
チーム登録料収益	4,254,000	0	0	4,254,000
受取会費				
協会受取会費	35,511,960	0	0	35,511,960
役員等受取会費	630,000	0	0	630,000
加盟協会料収益				
加盟協会料収益	2,350,000	0	0	2,350,000
スポンサー料収益				
スポンサー料収益	4,604,000	540,000	133,334	5,277,334
販売収益				
販売収益	6,957,000	1,689,200	0	8,646,200
検定料収益				
公認球検定料収益	2,547,360	0	0	2,547,360
手数料収益				
手数料収益	1,049,442	0	0	1,049,442
受取補助金等				
受取助成金	150,000	2,000,000	2,748,000	4,898,000
雑収益				
雑収益	426,997	5,021	12	432,030
経常収益計	61,357,290	10,103,627	7,068,346	78,529,263
(2) 経常費用				
事業費				
謝金	698,042	107,958	115,000	921,000
旅費交通費	2,544,464	3,649,762	3,086,310	9,280,536
宿泊費	353,432	2,088,667	1,383,740	3,825,839
事業支援費	19,681,460	0	0	19,681,460
貸借リース料	78,210	409,730	184,528	672,468
制作費	2,146,907	2,274,166	0	4,421,073
用具費	142,617	1,180,717	1,704,013	3,027,347
通信運搬費	705,479	706,444	54,303	1,466,226
印刷製本費	3,574,355	382,760	70,790	4,027,905
事業消耗品費	1,332,005	1,216,340	140,799	2,689,144
事業雑費	325,368	316,520	2,325,941	2,967,829
管理費				
給与手当	7,466,702	0	0	7,466,702
通勤費	463,776	0	0	463,776
法定福利費	1,244,301	0	0	1,244,301
福利厚生費	69,470	0	0	69,470
賃借料	3,566,356	0	0	3,566,356
リース料	254,016	0	0	254,016
旅費交通費	843,233	0	0	843,233
通信費	529,752	0	0	529,752
運賃	955,994	0	0	955,994
発送業務委託費	0	0	0	0
消耗品費	476,899	0	0	476,899
顧問料	1,000,000	0	0	1,000,000
業務委託費	313,274	0	0	313,274
会議費	56,120	0	0	56,120
接待交際費	263,078	0	0	263,078
水道光熱費	296,639	0	0	296,639
諸会費	574,490	0	0	574,490
租税公課	844,300	0	0	844,300
支払助成金	0	0	0	0
減価償却費	90,000	0	0	90,000
雑費	332,497	0	0	332,497
経常費用計	51,223,236	12,333,064	9,065,424	72,621,724
当期経常増減額	10,134,054	△2,229,437	△1,997,078	5,907,539
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	10,134,054	△2,229,437	△1,997,078	5,907,539
税引前当期一般正味財産増減額	10,134,054	△2,229,437	△1,997,078	5,907,539
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	10,064,054	△2,229,437	△1,997,078	5,837,539
一般正味財産期首残高	58,783,694	△19,385,025	△7,182,908	32,215,761
一般正味財産期末残高	68,847,748	△21,614,462	△9,179,986	38,053,300
II 正味財産期末残高	68,847,748	△21,614,462	△9,179,986	38,053,300

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2020年 6月 20日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 畑 敬 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2019年度（自2019年4月1日至2020年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2020年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協定会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2020年 6 月 20 日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 山田 正 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2019年度（自2019年4月1日至2020年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2020年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協定会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

